



ONE TEAM

校長 垣崎 晃

令和元年 9 月 20 日に日本 VS ロシア戦で幕を開けた、ラグビーワールドカップ日本大会。日本中を盛り上げ、様々な感動を与えてくれました。試合も決勝戦と 3 位決定戦を残すのみとなりました。もっともっと観ていたい気持ちなのは私だけではないと思います。

日本が南アフリカに負けた翌日、朝会で子供たちにこんな話をしました。「残念ながら日本は負けてしまいました。でも、ベスト 8 に入ったことを、同じ日本人としてとっても誇りに思います。世界で、一番と言われるハードな練習をして、初めて予選リーグを突破しました。」そして、17-145 と書いた紙を子供たちの前に出しました。「今から、24 年前、オールブラックスと戦った時のスコアです。145 点とられました。21 本のトライです。4 分かからずに 1 本とられたことになります。弱かった日本は努力に努力を重ねてここまでは来ました。素晴らしいと思います。みなさんも努力することの大切さを忘れないでほしいと思います。」子供たちもしっかり聞いてくれました。

試合はもちろんですが、それ以外にもうれしい話がありました。

大きな話題になったのが、国歌斉唱です。試合前に選手と一緒に入場する「マスコットキッズ」と呼ばれる子供たちが選手と共に一生懸命その国の国歌を歌いました。試合後、選手たちは大いに感激し、報道陣に対し、「一緒に入場した子供が国歌を歌ってくれたんだ。自分の国にいるように感じた。日本のみなさんに感謝したい。」と述べたそうです。また、スタンドでも、国歌と一緒に歌う日本人がたくさんいました。日本戦の時にも、相手チームの国家を大きな声で歌う姿に世界中のファンから、「素晴らしい」との賞賛の声が上がっていたそうです。

ニュージーランド(NZ)の試合後のお辞儀も話題になっていました。NZのリード主将は「日本の人たちはオールブラックスを愛してくれている。皆さんに愛情を返したかった。できるだけ多くの人々とつながりたい。」と話していたそうです。この「お辞儀」は一生懸命応援してくれる日本のファンに感謝の気持ちを伝えたいと他のチームにも広がって行ったそうです。

また、台風 19 号の影響により、10 月 13 日に岩手県釜石市で予定していたラグビーワールドカップ 1 次リーグのナミビア対カナダ戦が中止になりました。試合は、東日本大震災の復興のシンボルである「釜石鵜住居(うのすまい)復興スタジアム」(釜石市)で開催予定でした。震災で津波に流された旧鵜住居小学校、釜石東中学校の跡地に建設されたスタジアムだったのです。だが、試合が中止となった後、カナダ代表の選手たちは自ら申し出て、釜石に残り、道路にたまった泥かきや浸水で汚れた家具の搬出を手伝ってくれました。対戦国のナミビア代表選手らは、公認キャンプ地の宮古市を急遽訪問し、災害対応に当たる市職員を激励し、子どもたちと交流してくれたんだそうです。

選手、運営の方々、そしてTV観戦を含めたファンの皆さんが「ONE TEAM」となったワールドカップ。「おもてなし」「応援」「ありがとう」等、得ることがたくさんあったように思います。すてきな大会でした。そして、ワールドカップに感謝の意を表すとともに、この「心」を、本校の子供たちに伝えたいと思います。